

紀南サテライトの事業と IT

和歌山大学紀南サテライト部長 大泉英次

kinan@center.wakayama-u.ac.jp

<http://www.wakayama-u.ac.jp>

キーワード：紀南サテライト，地域連携，遠隔授業，e-Learning，都市と農村の交流

1. はじめに

- 全国の大学サテライトの現状と問題点（大学による地域貢献、地域研究・教育の拠点としての役割）。
- 和歌山大学紀南サテライトの特徴と課題（地方型サテライトとしての特色と取組み）。

2. 大学サテライトの現状

- サテライトの活動は、講義・演習など「学校型」事業と、生涯学習・産官学連携・地域交流など「非学校型」事業に大別される。
- 2004年8月現在、全国の国公立大学（232大学）のうち83大学がサテライトを設置（国立46、公立13、私立24）。また9大学が設置を計画（国立6、公立2、私立1）。
- サテライトの9割以上は2000年以降に開設されている。

3. 大都市型サテライトと地方型サテライト

- 大都市型サテライト：大都市、地方中核都市の交通至便な都心部で、講義、講座等を実施。大学の立地条件の悪さをカバーする。
- 地方型サテライト：地方都市、農村の住民を対象に講義、講座等を実施。費用対効果や受講者の確保に難点。教職員にとっても負担が大きい。
- 地方型サテライトの「持続可能性」をどう確保するかが最大の課題。

4. 和歌山大学紀南サテライト

- 地方型サテライトとしての問題点をどう克服するか。
- 高等教育・生涯学習部門、地域研究部門、地域連携部門の3部門で組織を構成。
- 高等教育の一部を提供するだけでなく、大学の総合的な諸機能を持ち込んだ「地域ステーション」をめざす。
- インターネットを利用した遠隔授業も実施。

5. 紀南サテライトの大学院教育

- 経済学研究科「紀南サテライトコース」による科目等履修生・院生の募集。
- 科目等履修生制度と修士課程（標準修業年限1年）との組み合わせ。
- 経済学部教員を中核に、学内他学部、センター教員等が授業担当（各科目を複数教員で展開）。

6. 紀南サテライトの地域研究・教育プロジェクト

- 2005年度に13プロジェクト（テーマは人材育成、地域課題、保健福祉、生涯学習、情報発信、産官学連携など）を実施。延べ43名が参加。
- 成果を、紀南サテライトでの講義、講座、報告会や印刷物などの形で地域に還元する。
- 紀南サテライトの今後の事業展開に向けた「種まき」という位置づけ。



写真1 紀南サテライトポスター



図1 紀南サテライト概要図



写真2 大学院授業

7. 地域密着型生涯学習の事例

- 東南海・南海地震など、予想される大災害に備える人づくり。
- 地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」。100名募集にたいし05年度128名、06年度152名が受講。
- 防災教育講座と災害図上訓練、そして災害サバイバル合宿。
- 講座は遠隔双方向講義システムによりネット中継し、紀南サテライト（主会場）と大学キャンパス（副会場）で二元展開。



写真3 防災講座（紀北会場）
（遠隔双方向講義システム）

8. 紀南サテライトと地域連携組織

- 持続可能性を支える最大の条件は地域との連携。
- 紀南サテライト連携協議会：県、地元自治体、経済団体などで構成。高等教育部門の事業を支援。
- きのくに活性化センター：紀南地域の活性化をめざし、大学と上記諸団体のほか市民団体、個人も参加して構成。同センターは地域連携部門の事業を支援。



写真4 紀南サテライト連携協議会

9. 地方型サテライトの持続可能性への課題

- 地域研究・教育の拠点づくりとそれを通じた紀南地域活性化への貢献。
- 地域のニーズを引き出す仕組みをどうつくり出すか。
- リピーターをどうつくり出すか。
- 地域の人材をどう活用するか。



写真5 学部授業

10. 当面の取組み事例から

- 田辺広域圏産業振興ビジョン策定事業（事務局きのくに活性化センター。紀南サテライトも協力）。
- 紀南サテライト受講生同窓会の発足にむけて（カリキュラム・授業への要望を集約）。
- 紀南サテライトと岸和田サテライトを結ぶ遠隔授業「カントリーライフ学」を計画（都市と農村の住民交流）。



写真6 フィールド学習



写真8 防災講座ポスター



写真7 e-learning